

報道機関 各位

令和5年3月13日

北見工業大学

## 土壌サンプルロボットに関する研究説明会及び実演会開催のお知らせ

現在、日本の農業が抱える問題に、農業従事者の減少と高齢化、そして農業従事者の減少による一人当たりの負担増加が挙げられ、農作業の省力化・高能率化が求められています。

一方、全世界では有機食品の市場と需要が、1999年から2018年の20年間で約7倍に増加しています。農林水産省が推進している「みどりの食料システム戦略」においては、2050年までに日本の耕地面積の25%を有機農業取組にすること（現在0.6%）、化学肥料使用量の30%低減を目標に掲げています。日本で有機農業が拡大しにくい大きな理由として、有機肥料の不足と手取り除草作業の人手不足があります。有機肥料不足に対して、土壌サンプルの高密度な自動採集と分析を行い、圃場の土質や栄養成分分布を把握することによって、肥料を最小限の量に抑えつつ、適切な場所に有効に散布することができます。

北見工業大学では、有機農業を拡大するための土壌サンプルロボットと除草ロボットの研究開発を行っています。

今回、その土壌サンプルロボットに関する研究説明会及び実演会を、下記のとおり開催します。ご取材いただけます際には、令和5年4月5日（水）17時までに、別紙「取材申込書」でお申込みいただきますようお願いいたします。

### 記

日時：令和5年4月7日（金）10時～12時

場所：【説明会】 JA つべつ本所事務所

〒092 - 0231 北海道網走郡津別町大通 30 番地 1

【実演会】 有限会社 矢作農場

〒092 - 0205 北海道網走郡津別町岩富 59

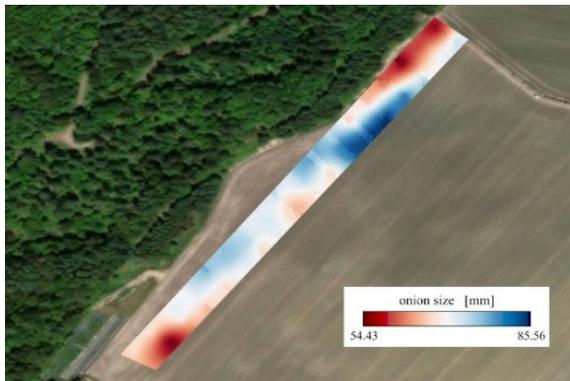
※天候が悪い場合は室内実演

説明会内容：

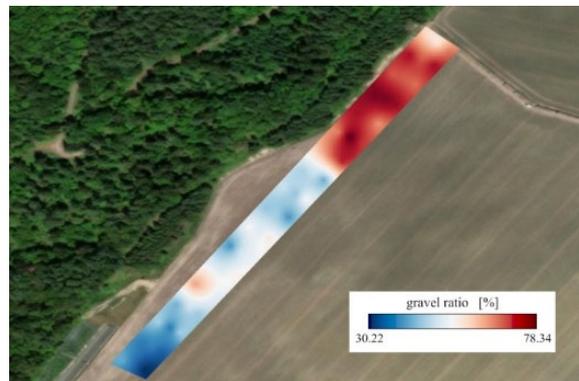
1. 「土壌サンプルロボットの開發現状」  
北見工業大学 機械電気系 准教授 楊 亮亮
2. 「土壌分析法の研究現状」  
北見工業大学 応用化学系 准教授 宇都 正幸
3. 「ArcGIS を活用した農場データの可視化と共有」  
北見工業大学 地域国際系 准教授 三枝 昌弘



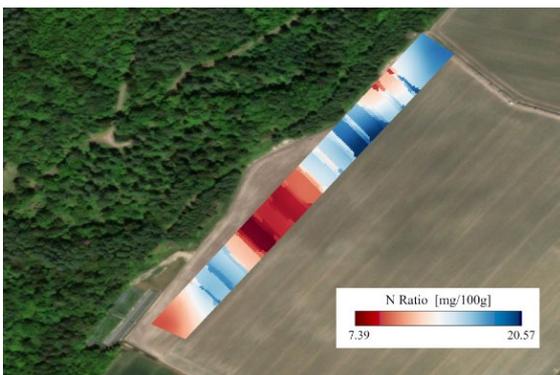
土壌サンプルロボット



玉ねぎの大きさの分布



土壌サンプルの礫（直径 2 mm以上）の比率



土壌サンプルに含まれていた窒素の量

**【取材・参加・その他お問い合わせ先】**

北見工業大学 研究協力課 産学連携係

TEL : 0157-26-9157 E-mail kenkyu11@desk.kitami-it.ac.jp

FAX： 0157 - 26 - 9155

E-mail： kenkyu11@desk.kitami-it.ac.jp

土壌サンプルロボットに関する研究説明会及び実演会 取材申込書

氏名	勤務先	職名	備考

開催日時：令和5年4月7日（金）10時～12時

開催場所：【説明会】 JA つべつ本所事務所

〒092 - 0231 北海道網走郡津別町大通 30 番地 1

【実演会】 有限会社 矢作農業

〒092 - 0205 北海道網走郡津別町岩富 59

※ 天候が悪い場合は室内実演

**【申込締切：令和5年4月5日（水）17時】**

【申込先・問合せ先】

北見工業大学研究協力課産学連携係

〒090 - 8507 北見市公園町 165

TEL： 0157 - 26 - 9157